

地球に 笑顔

産業廃棄物の
再資源化率

99.99%

環境負荷の低減に積極的に
取り組み、未来の笑顔を守ります。

グループ全体で環境負荷低減に向けた取り組みを
推進し、豊かな地球環境と未来の笑顔を守ります。



廃棄物の排出量削減への取り組み

環境負荷の低減に向け、生産活動だけではなく、資材調達や物流でも廃棄物の削減に継続的に取り組んでいます。工場では発生した食品残渣の肥料化や飼料化、冷蔵庫では使用済みの包材の有価物化を進めています。

肥料化による廃棄物の削減 ▶ 埼玉工場

2005年3月より排水汚泥を処理することで乾燥菌体肥料を生産、肥料登録し、肥料会社へ販売しています。汚泥供給方法や乾燥方法を改善し、2018年は過去最大の生産量となり、2005年から2018年までに約900tを生産しています。



埼玉工場での肥料化

包材（ダンボール箱など）の仕様変更による 資材使用量の削減

包材の形状、サイズ、材質を見直す取り組みを適宜検討・実施しています。工場でのラインテストなどの検証を実施し、安全性、機械適性などを確認した上で、包材の厚みを調整するなど省資源化に向けた取り組みを行い、資材使用量の削減につなげています。例えば、段ボール箱について、形状を変更することで、製函した際の状態を安定化しつつ、古紙（段ボール箱の原料）の使用量を低減した仕様への変更を実現しました。



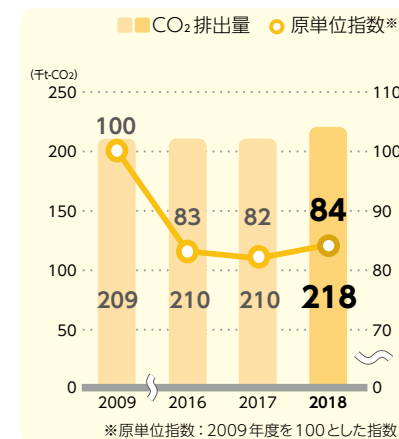
ビオトープの取り組み

関東工場では、環境への取り組みの一環として地域の生物多様性の保全を目的とした「ビオトープ」を設けています。地元館林を流れる谷田川に近い環境が保たれていることから群馬大学の石川真一教授のご指導のもと、自生している絶滅危惧種の「マツカサススキ」の他、同じく絶滅危惧種の「チョウジソウ」「フジバカマ」の苗をお預かりし、大切に育てています。



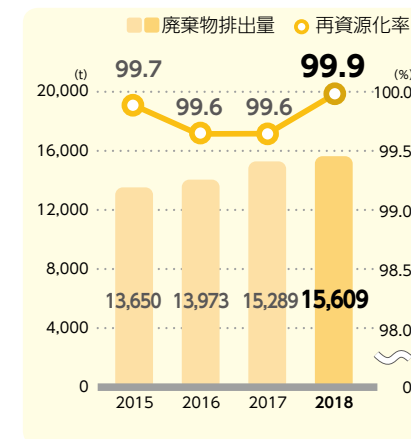
環境負荷データの推移（国内グループ事業所）

▶ CO₂ 排出量と売上高原単位



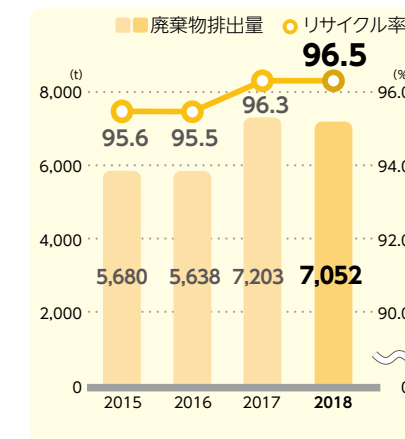
昨年度の排出量はグループ会社における生産増や工場部門でのフロン漏洩増加などに伴い増加し、原単位も上昇しました。

▶ 産業廃棄物排出量と再資源化率



昨年度の排出量はグループ会社工場における生産増により増加しましたが、再資源化率は処分方法を変更し、向上しました。

▶ 食品廃棄物の排出量とリサイクル率 （東洋水産（株）単体）

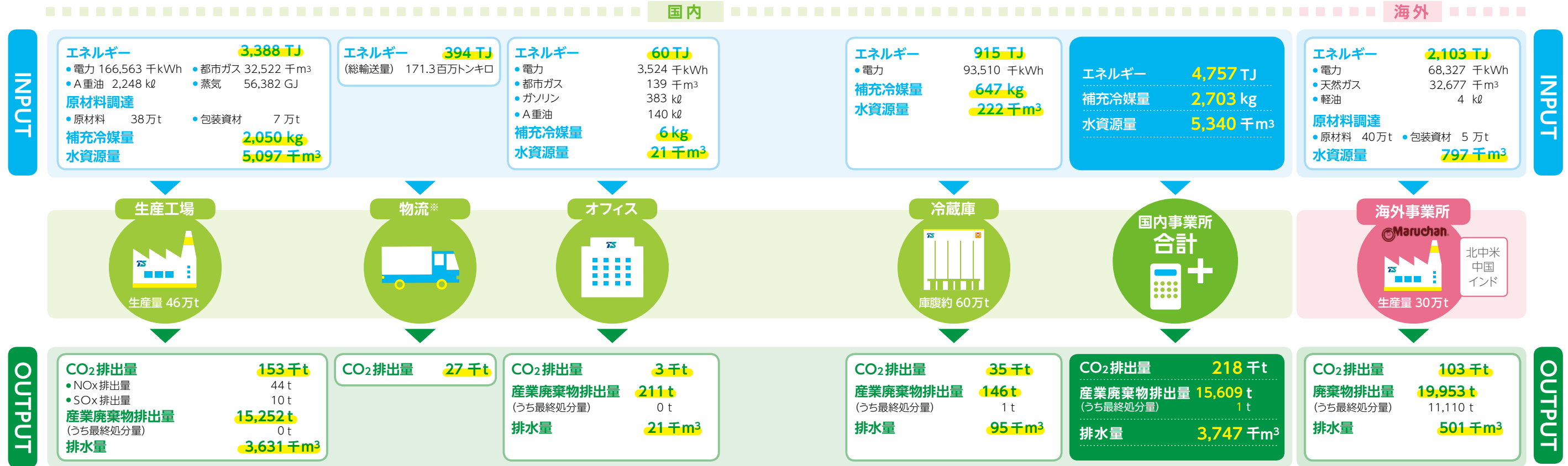


工場での製造トラブル削減に取り組み、排出量は昨年度より減少し、リサイクル率は法令に基づく目標値95%以上を継続しています。

CO₂ 排出量 算出の根拠

- ▶ 電力：電気事業連合会 2009年度実績に基づく使用端 CO₂ 排出原単位 (0.351kg -CO₂/kWh) を使用
- ▶ 電力以外：温対法の換算係数を使用
- ▶ 使用冷媒：IPCC4次レポート「地球温暖化係数 (GWP)」を使用

環境負荷データ (グループ全体)



※ 物流は、省エネ法(特定荷主)における東洋水産(株)単体の適用範囲より算定

① 自然冷媒冷却設備への入れ替え

東洋水産グループの冷蔵倉庫では、温室効果の大きいフロン冷媒から自然冷媒(アンモニア・CO₂)への切り替えを進めています。自然冷媒冷却設備に入れ替えた埼玉東洋(株)では、他にも使用電力を抑えるための取り組みを進め、4月-12月算出で使用電力量1,061千kwhを削減しました。(前年比63.7%)



② 輸送における環境負荷の低減への取り組み

輸送におけるCO₂ガス排出量低減のために、モーダルシフトの推進や個建配送から車建配送(チャーター便)への変更に取り組んでいます。チャーター便の積載を上げることにより効率よく商品を輸送することで環境負荷の低減を図ることができます。



③ 稚魚の放流 ▶ 田子工場

田子工場では、1996年より水産資源の保護や地域の活性化を目的に、カサゴなどの稚魚放流活動を行っています。2019年5月には21回目となる放流活動を実施し、13,000匹の稚魚を放流しました。



④ 海外即席麺事業での環境負荷低減への取り組み ▶ マルチャンインク

国内の工場だけでなく、海外の即席麺事業の各工場でも、照明のLED化による電力使用量の削減や外装プラスチック包材やカートンに使用する資材の消費量の削減、資材の梱包材のリサイクルなどを行い、環境負荷の低減につながる活動を行っています。また、一部の工場では、工場周辺や職場環境の向上を目的とした活動を実施しています。

